

# 「デザインの風」展 生活の用・生活の美

美の本質的な機能は、生活に奉仕することにある 大藪雅孝



「デザインの風」展 展示風景

「『デザインの風』展は、二十一世紀の朝を告げる『風』をコンセプトに、戦後のデザイン美術を大成した展覧会です。戦後から今日まで、各分野で活躍するデザイナーたちのエポックになった作品を網羅して通観する、日本ではじめての、かつてない規模と内容で公開します。」

長い歴史のなかで洋の東西を問わず、あらゆるものづくりとその表現は、すべて私たちの「生活の用」に配慮することを目的としてきました。「用」即ち「美」でありデザインであったということができます。その典型は、建築、作庭、工芸はもとより、仏画、仏像は礼拝のシンボルとして、また、絵巻、草紙、肖像画、浮世絵はイラストレーションとして、さらに扇面画や屏風絵、障壁画などがあり、すべて「用」をもつ、装飾工芸といっているでしょう。この装飾工芸という概念は、日本では十九世紀末に成立し、その歴史はきわめて浅いものです。ちなみに、西洋で美術の概念が工芸と区別されたのは、一八八八年のウィリアム・モリス以来です。

装飾工芸は、絵画や彫刻など、「用」の制約や拘束からはなれ、作家がより自由に独創的世界を構築する純粋美術と比較され、これまで「用」のために「美」の純粋さを欠くという一部の偏見により、工芸の美、デザインの美は、応用の美技として位置づけられ、価値の低いことを言外に含んだ、工芸的、装飾的という言葉が使われています。しかし、人が生活を営み始めて以来、日本の美術には、絶えることのない装飾の歴史があり、古代の壁画、仏画を始め、過去のあらゆる美しいものは工芸品であり、今言うデザイン作品です。近世の優れた障壁装飾画群をみても、装飾することが、本来の工芸的な作業であることがよく分かります。このように、日本の美の理念は、抽象的な理論ではなく、実際の行為と結びついて生まれました。したがって美の本質的な機能は、生活に奉仕することにあるということができます。

一八九六年（明治二十九年）、東京芸術大学の前身、東京美術学校「圖按科」が創設

され、一九三三年（昭和八年）には、工芸科として、図案部、漆工部、鍍金部、彫金部、鍛金部の五部制となり、常に工芸と図案は一体感を保ちながら歩み、一九七五年にデザイン科が新設されました。そして、現在に至る百有余年のその教育理念は、一貫して、高い造形力の基礎を身につけ、社会状況や技術の変化に対応しうる美的文化の創造力を養うことを目的としてきました。即ち「用」と「美」の融合こそ、デザイン教育の指針であり、そのことは今日に受け継がれてきています。デザインは、ジャンルの垣根がなく、あらゆる分野の造形表現を横断します。デザインとは、何を「意」、誰の為に「用」、何をもちいて「材」、どの様に「技」、を総合的に構築することであり、デザイン教育は、幅広い造形表現があるなかで、学生一人ひとりが自己の資質、才能を見いだせるよう、そして、個々の主体性に基づく専門性が発揮できるよう指導することが重要だと考えています。現在、芸大のデザイン科は、そのような教育構造で成り立っています。

会場の展示構成は、「風」をキーワードとして、四つのパートで展開していきます。

「デザインの風1 日本美術の源流」  
ここでは、日本のデザインの原型、源流である芸術史上の名品や意匠家の作品を回顧しながら、「生活の用」で貫かれた美の足跡をたどり、再認識しようというものです。

「デザインの風2 デザイン教育の原点」  
「生活の用と美」の融合を教育理念として

買き進めてきた、東京美術学校図案部から現在のデザイン科までに関わった教官たちの作品が展示公開されます。

「デザインの風3 デザイン実現の現場」  
この会場では、この半世紀余の芸大でデザインを学び卒業した人々を中心に、そのなかから社会に新たな「風」を吹き込みエポックをなしたと思われる作品を展示し、同時に、グラフィック部門では、現在第一線で活躍中のデザイナーによる新作グラフィックを公開します。

「デザインの風4 映像の劇場」  
ここでは、アニメ、CM、MV、実験映像、および空間照明、フライング・ロゴなどが楽しく演出され、公開されています。

この展覧会の目的は、とかく近代美術史の上で、純粋美術と比較され軽視されがちな工芸美術を、「デザイン美学」の面からスポットをあて、日本の美の系譜を見詰め直し、本来の美の姿が、人間に奉仕する「生活の用」であることの提起にあります。社会に奉仕する宿命をもつデザイナーは、人を明らかにせず無銘であることが多い。この展覧会を通して戦後の日本の社会に「用の美」として尽くしてきた多くのデザイナーたちのサインを明かし、「デザイン美術」への理解を促す機会として、また、次代を担う若いデザイナーたちに夢と希望をあたえ、創作意欲をかきたてる機会となることを願っております。

（おおよぶ、まさたか／美術学部デザイン科教授）

## 平山郁夫・金興洙二人展

卒業証書が結びつけた二人の芸術家の縁

大学美術館は日韓文化交流展として二人展を開催する（朝日新聞社と共催）。

二人は東京芸術大学美術学部（前身東京美術学校）の先輩・後輩にあたる。そもそも

## 展覧会予定

(2001.11~2002.2)

### [デザインの風]展 DESIGN SPIRIT OF JAPAN —生活の用・生活の美

会 期：10月6日(土)～11月25日(日)  
月曜休館。ただし、10月8日は  
開館し、翌9日は休館。

会 場：大学美術館本館  
観覧料：一般1,200円 高・大生700円  
主 催：東京芸術大学/読売新聞社  
協 力：EPSON/大日本印刷/日本板  
硝子/理想化学工業

お問い合わせ：  
NTTハローダイヤル 03-3272-8600  
<http://www.geidai.ac.jp/museum/>  
<http://www.yomiuri.co.jp/event/>

### 東京芸術大学・ ソウル大学校美術大学 2001年工芸科学生交流展

会 期：11月11日(日)～11月18日(日)

会 場：大学美術館陳列館  
入場無料  
主 催：東京芸大美術学部/ソウル大学  
校美術大学

10月7日から14日まで、本学の大学院  
学生4名の韓国派遣に続き、ソウル大学  
校美術大学から教官・学生8名を招き、  
交流展とシンポジウムを開催するもの。  
交流展にはソウル大より10名、本学よ  
り大学院美術研究科2年30名の計40名  
が出品し、11月13日(火)にシンポジ  
ウムを開催。

### [絵画空間01]展

会 期：11月25日(日)～12月9日(日)  
月曜休館

会 場：大学美術館陳列館  
入場無料  
主 催：美術学部/大学美術館

### 原 正樹退官記念展・境界の彼方へ —Beyond The Boundaries—

会 期：12月6日(木)～12月24日(月)  
月曜休館。ただし、12月24日は  
開館

会 場：大学美術館本館展示室1  
入場無料  
主 催：美術学部/大学美術館  
1958年東京芸大美術学部金工科卒業。  
76年美術学部講師、82年助教授、90  
年教授。鍍金。

### 坂本一道退官記念展・ 正方形と六角形の時

会 期：12月6日(木)～12月24日(月)  
月曜休館。ただし、12月24日は  
開館

会 場：大学美術館本館展示室3・4  
入場無料  
主 催：美術学部/大学美術館  
1961年東京芸大美術学部専攻科修了。  
76年美術学部講師、78年助教授、83  
年教授。油画技法材料。

### 取手校地創作展

会 期：12月7日(金)～12月9日(日)  
会 場：取手校地(茨城県取手市)  
入場無料

主 催：美術学部  
絵画・彫刻・工芸・デザイン科などの  
取手校地に通学する美術学部1年生及  
び先端芸術表現科学生に大学院有志学  
生を加え、学生が自主的に企画・運営  
する展覧会。

### 平山郁夫・金興洙二人展

会 期：1月8日(火)～2月11日(火)  
1月19日・20日及び月曜休館。  
ただし、1月14日、2月11日は開  
館

会 場：大学美術館本館  
観覧料：一般1,000円 高・大生600円  
主 催：美術学部/朝日新聞社/駐日  
韓国大使館文化院/東亜日報社

### 望月積・小松敏明退官記念展

会 期：1月10日(木)～1月27日(日)  
1月19日・20日及び月曜休館。  
ただし、1月14日は開館

会 場：大学美術館陳列館/取手館(茨  
城県・取手市)

入場無料  
主 催：美術学部/大学美術館  
望月 積 1960年東京芸大美術学部  
工芸科卒業。77年美術学部講師、83  
年助教授、93年教授。環境造形デザイ  
ン。

小松 敏明 1960年東京芸大美術学部  
工芸科卒業。74年美術学部助手、78  
年講師、82年助教授、94年教授。機  
能造形デザイン。

### 平成13年度卒業・修了制作展

会 期：2月21日(木)～2月26日(火)  
会 場：大学美術館本館/陳列館/東京  
都美術館(上野公園内)

入場無料  
主 催：美術学部  
平成13年度美術学部卒業予定者及び大  
学院美術研究科修了予定者が、在学中  
の制作・研究の成果を発表するもの。  
通称「芸大卒展」。

### [未来映像・音響の創作と双方向臨場 感通信を目的とした高品位Audio— Visualの研究]成果発表会

12月19日(水) 第1回発表10:30～/  
第2回13:30～/第3回15:00～  
12月20日(木) 第4回発表10:30～/  
第5回13:30～/第6回15:00～  
12月21日(金) 第7回発表10:30～/  
第8回13:30～/シンポジウム13:30  
～/第9回15:00～

会 場：大学美術館陳列館  
入場無料  
主 催：大学美術館/  
北陸先端科学技術大学院大学  
北陸先端科学技術大学院大学の宮原  
誠教授を代表とする5ヵ年共同研究の最  
終成果を9回に渡り発表する。人が深い  
感動を受ける心の用意ができるのは、  
暗闇、静寂のaffordance 環境であるとし、  
これを実現するために開発した道具  
を用いた創作を発表する。日本学術  
振興会未来開拓学術研究推進事業。

※展覧会についてのお問い合わせ  
東京芸術大学大学美術館  
Tel. 03-5685-7755

※展覧会の紹介は、下記のウェブサイト  
でもごらんになります。  
<http://www.geidai.ac.jp/museum/>

も十歳以上も年の離れた二人を結びつけたのは、一枚の卒業証書である。  
第二次大戦(太平洋戦争)にかかる一九三八年から四四年に東京美術学校に学んだ金興洙(八十一歳)は、学徒兵に志願しなかったなどの理由で正式な卒業証書を手に入れない。美術学部長時代の一九八八年頃、平山郁夫はこのことを聞き証書授与に尽力し、ここから二人の交流がはじまり、半世紀遅れで実現した。  
金興洙は、具象と抽象表現を一つの画面で行なうことを提唱する油彩画家である。「韓国の幻想」(一九七九年)、「戦争と平和」(二〇〇一)、「一九八六年」などの大作の代表作がある。  
平山郁夫作品は、「バーミアンの大石仏」(一九六八年)や「流水間断無(奥入瀬溪流)」(一九九四年)などのほかにユネスコ登録世界遺産を描いた素描を合わせて四十



平山郁夫「流沙浄土変」1976年



金興洙「韓国の幻想」1979年

点余。すでに本年五月にソウルの「芸術の殿堂」(アートセンター)で二人展が開かれ、好評を博した。  
(たけうち・じゅんいち/大学美術館教授)



### 大学美術館概要

開館	1999年10月
基本設計	東京芸術大学施設課十六角鬼丈
総合監修	六角鬼丈
実施設計	日本設計
敷地面積	3,860.71m <sup>2</sup>
建築面積	1,699.97m <sup>2</sup>
延床面積	8,719.76m <sup>2</sup>
階数	地下4階 地上4階
構造	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨屋根

# “うた”シリーズ1 日本歌曲の流れ

失ってはいけない「過去の宝物」の数かず

三林輝夫

〈兔追いし かの山 小鮎釣りし かの川  
……〉  
今や兔を追いかける野山も、小鮎の釣  
れる川も、身近にはほとんどなくなっ  
てしまった。しかしこの歌を口にする  
と、誰でもほのぼのとあたたかい懐  
かしさが胸一杯に広がることだろ  
う。

へしばしも休まず 槌打つ響き 飛び散る  
火花や 走る湯玉……

この歌は鍛冶屋という商売がなくなっ  
た理由などで、音楽の教科書から消  
えて久しい。そして、今また「荒城  
の月」を削除しようとする意見と、そ  
れに対する反論とがぶつかりあっ  
ていると聞く。たしかに、明治時代  
の漢詩・漢語を主体とした文語で作  
詞されているため、今の生徒には、  
先生の解説なしでは理解が難し  
いだろう。だからと言ってこの名  
曲が消えていって良い、ということ  
はならない。

文明、近代化……といった言葉の

私たちは一体どれだけ過去の宝物を失っ  
てきたことだろうか。詩人たちの魂  
から紡ぎ出された言葉に、作曲家た  
ちが心血を注いで音の装いを凝ら  
した歌曲。私は日本人の心とも言  
うべき日本歌曲を、大切に受け継  
いでいきたいと切に願っている。「  
荒城の月」誕生から百年、これまで  
生まれた、優れた日本歌曲のすべ  
てを網羅することはかなわないま  
でも、四夜にわたるダイジェスト  
“うた”シリーズ1「日本歌曲の流  
れ」によって、大きな潮流を俯瞰  
することは、意義あることと思  
う。

二〇〇二年からは、オペラのア  
リア・アンソング、ドイツ歌曲、  
イタリア歌曲等の演奏会が“う  
た”シリーズ2として展開される。

“うた”を愛する皆様の多大な支  
援を、声楽科一同心からお願い申  
上げる次第である。

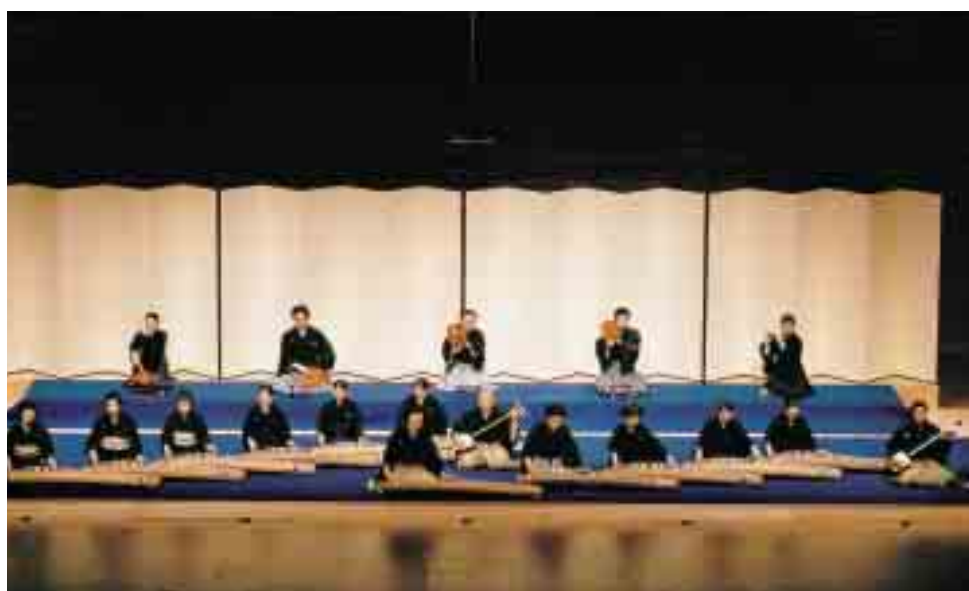
(さんばやし・てるお／音楽学部  
声楽科教授)



## 芸大定期邦楽 第六十三回演奏会

難解な邦楽のイメージを払拭する

本学の定期演奏会は、大学オケ・学生オケ・声楽・オペラ・室内楽の公演等、洋楽系の教官・学部生・院生が主に演奏を行なう一方、日本音楽を総括する邦楽科も一九五三年（昭和二十八年）以降毎年定期演奏会を開催している。しかも当時から邦楽定期演奏会の場合教官と学生が、「同じ舞台を通じた教育」を最も重要なものにし、そ



芸大定期邦楽第63回演奏会より

増淵任一朗

の教育を買っていることである。このことは美風とも言えるが、実際学生に教えて、なおともに演奏するということは教える側の試練であると同時に、大所において邦楽の大切な要因を過不足なく補い得る機会となっている。当時教官として迎えられた邦楽界の巨星に学んだ卒業生の多くは、その後の邦楽を、より高度なレベルに向上させ今日

**演奏会予定**  
(2001.11~2002.2)

11月1日(木)  
**平成13年度東京芸術大学音楽学部  
附属音楽高等学校定期演奏会**

18:00開演 入場無料(要、整理券)  
【曲目】第1部 邦楽合奏  
糸竹参声(増淵任一郎)／岡康  
祐(岡康小三郎)／琉球民謡に  
よる組曲(牧野由多可)／嵯峨  
の秋(菊末検校)  
第2部 オーケストラ  
バレエ音楽「ガイーン」より「剣  
の舞」(ハチャトゥリアン)／ピアノ  
協奏曲第1番変ホ長調(リスト)／  
ミサ曲第6番変ホ長調D.950より  
「キリエ」「グロリア」(シュー  
ベルト)／交響曲第2番ニ長調Op.36  
(ベートーヴェン)  
【指揮】田中良和・鈴木織衛  
【出演】ピアノ：佐藤卓史(3年) 管弦  
楽・合唱：附属音楽高等学校生徒  
他

11月7日(水)  
**室内楽特別演奏会～ハイドン弦楽四  
重奏曲全曲演奏シリーズその3～(第1  
夜)**

18:30開演 1,300円(自由席)  
【曲目】協奏交響曲変ロ長調Hob.I:105  
(ハイドン)／十字架上のキリス  
トの七つの言葉(管弦楽版)(ハイ  
ドン)  
【出演】ヴァイオリン：甲斐慶耶／チェロ：  
福富祥子／オーボエ：板谷宏  
美／ファゴット：岩佐雅美  
管弦楽：教官と学生によるオーケ  
ストラ 主宰：岡山 潔  
【演出】實相寺昭雄  
【語り】寺田 農

11月9日(金)  
**室内楽特別演奏会～ハイドン弦楽四  
重奏曲全曲演奏シリーズその3～(第2  
夜)**

18:30開演 1,300円(自由席)  
【曲目】弦楽四重奏曲へ長調Hob.III:48  
「夢」(ハイドン)／十字架上のキ  
リストの七つの言葉(弦楽四重奏  
版)(ハイドン)  
【出演】ヴァイオリン：松原勝也・岡山  
潔／ヴィオラ：菅沼準二／チェ  
ロ：河野文昭  
【演出】實相寺昭雄  
【語り】寺田 農

11月22日(木)  
**芸大定期 オーケストラ第296回  
"合唱付き"**

18:30開演 1,800円(自由席)  
【曲目】オラトリオ「エリア」(F.メン  
デルスゾーン)  
【ソリスト】馬原裕子・永崎京子・小高  
史子(ソプラノ)／木下泰子・  
在田恭子・枝野朝子(アル  
ト)／岡田尚之・児玉和弘(テ  
ノール)／佐々木直樹・藪内俊  
弥・小野和彦(バス)  
【指揮】エルヴィン・オルトナー  
【合唱】音楽学部声楽科学生  
【管弦楽】管弦楽研究部

11月11日(日)  
**ウィーン国立立大と芸大生による室内  
楽コンサート**

14:00開演 入場無料  
【曲目】弦楽三重奏曲c-moll Op.9-3(ベ  
ートーヴェン) 他

11月27日(火)  
**芸大定期 吹奏楽第67回**

18:30開演 1,300円(自由席)  
【曲目】世界三大マーチ集(Ⅲ)：美中  
の美(J.P.スーザ)／ウィーンは  
いつもウィーン(J.H.シュランメ  
ル)／ハンガリア行進曲(H.ベル  
リオース)／ロメオとジュリエッ  
ト(P.チャイコフスキー)／吹奏  
楽のためのシュベール(E.トッ  
ホ)／ハイドンの主題による変奏  
曲作品56(J.ブラームス)／リン  
カーンシャーの花束(P.グレンジ  
ャー)  
【指揮】ゲルノート・シュマルフス  
【演奏】音楽学部管打楽器専攻学生

11月29日(木)  
**"うた"シリーズ1 日本歌曲の流  
れ 第三夜**

18:30開演 1,300円(自由席)  
【曲目】山田一雄「もう直き春になるだろ  
う」／高田三郎「ひとりの対話」  
より「くちなし」他／石渡日出  
夫「汚れっちまった悲しみに、鹹  
湖」／伊福部昭「ギリヤーク族  
の古き吟誦歌」より「熊祭りに行  
く人を送る唄」／関宮芳生「南  
部牛追唄」／早坂文雄「うぐい  
す」／石桁眞礼生「ふるさとの、  
鴉」他／別宮貞雄「さくら横  
ちよう、「淡彩抄」より「ほ  
たる」他／柴田南雄「『優しき  
歌』より「爽やかな五月に、さび  
しき野辺」／畑中良輔「秋の空、  
花林」／大中原「くぐれに寄す  
抒情、昨日いらっして下さい」  
【出演】三林輝夫、伊原直子、平野忠彦、  
永井和子、佐々木典子、高橋修  
一、高橋啓三、三縄みどり、大  
島洋子、平松英子、日比啓子、  
福井敬、大学院声楽専攻学生

11月30日(金)  
**芸大定期 オーケストラ第297回～学  
生オーケストラ演奏会～**

18:30開演 1,300円(自由席)  
【曲目・出演】ピアノ協奏曲ト長調(ラヴ  
ェル) ピアノ：日下知奈 指揮：  
松尾葉子／スペイン狂詩曲(ラヴ  
ェル) 指揮：小田野宏之／歌  
劇「ラ・ボエーム」第3幕より  
「四重唱」(ブッチェーニ) 松岡万  
希、王真紀(ソプラノ)・志  
田雄啓(テノール)・宮本益光  
(バリトン) 指揮：田中良和／ロ  
ーマの松(レスピーギ) 指揮：  
田中良和  
【管弦楽】音楽学部学生オーケストラ

12月4日(火)  
**芸大定期 邦楽第63回**

18:30開演 1,800円(自由席)  
【曲目】箏曲「編曲 都の春」／尺八  
「衆楽」／箏曲「防人の歌」／日  
舞・長唄・清元・邦楽囃子「春  
夏秋冬」／能楽「船弁慶」  
【出演】各講座の教官及び学生

12月12日(水)  
**第51回メサイア公演  
歳末助け合いチャリティコンサート  
【会場：東京文化会館大ホール】**

18:30開演 3,500円(A席)／2,500  
円(B席)／1,500円(C席)

【曲目】メサイア(G.F.ヘンデル)  
【ソリスト】音楽学部学生および大学院音  
楽研究科学生

【指揮】小泉ひろし  
【管弦楽】管弦楽研究部  
【主催】朝日新聞、朝日新聞東京厚生文  
化事業団  
【協力】音楽学部  
【チケット販売】銀座プレイガイド、東京  
文化会館チケットサービス03-  
5815-5452

12月15日(土)  
**"うた"シリーズ1 日本歌曲の流  
れ 第四夜**

15:00開演 1,300円(自由席)  
【曲目】中田喜直「六つの子供の歌」よ  
り「風の子供、おやすみ」他／團伊  
玖磨「五つの断章」より「舟歌、  
朝明」他／小林秀雄「鐘、落葉  
松、演奏会用アリア「すてきな春  
に」」／湯山昭「木屋のセレナー  
テ、たにし辛み唄」／林光「四  
つ目の夕暮の歌」より「誰があたり  
を消すのだろう」他／浦田健次  
朗「八木重吉の詩による六つの  
うた」より「素朴な琴」他／三  
善晃「『聖三稜波瀾』より「いの  
り、青空」他」  
【出演】朝倉蒼生、伊原直子、三林輝夫、  
嶺貞子、林康子、永井和子、渡  
邊明、大島洋子、高文二、大学  
院声楽専攻学生

12月21日(金)  
**第21回台東第九公演(台東第九公演  
実行委員会主催)**

19:00開演 2,000円(自由席)  
【曲目】交響曲第9番 二短調作品125「合  
唱付き」(ベートーヴェン)  
【ソリスト】小高史子(S)、小野和歌子(A)、  
志田雄啓(T)、原田圭(Br)  
【指揮】尾高忠明  
【管弦楽】管弦楽研究部  
【合唱】台東区民合唱団  
※お問い合わせ先  
03-5246-1441 台東区教育委員会

12月12日(火)  
**芸大定期 室内楽第28回 第1夜**

18:30開演 1,300円  
【曲目】未定 【出演】未定

12月13日(水)  
**芸大定期 室内楽第28回 第2夜**

18:30開演 1,300円  
【曲目】未定 【出演】未定

※演奏会の曲目・出演者については、変  
更することがあります。  
※本学には駐車場はありませんので、お  
車でのご来場はご遠慮ください。  
※チケットの取り扱い  
チケットぴあ03-5237-9990/東京文化  
会館チケットサービス03-5815-5452/  
東京芸大大学美術館ミュージアムショ  
ップ(大学構内)  
※上記の演奏会その他、「木曜コンサート」  
(会場：上野公園内旧東京音楽学校奏  
楽堂)「学内演奏会」の日程について  
は、下記にお問い合わせください。  
※チケット・演奏会等のお問い合わせ先  
音楽学部演奏係 03-5685-7700  
※演奏会予定は、下記のウェブサイトでも  
ごらんになります。  
<http://www.geidai.ac.jp/>

に至ることも明らかである。  
このように有史以来の根本を継続し続け  
てゆく邦楽定期演奏会の演奏内容について  
今日、学生が多様化している状況では、更  
に精密なカリキュラムや演奏・教育等多方  
面のコースを整備しながら国際的な受け入れ  
も含め演奏内容をより豊かにし、しかも高め  
てゆくことが私たち邦楽科教官の使命と言  
える。  
現在、邦楽定期演奏会に配されるプログ  
ラムは、古典・現代(創作)の整合が大変

良いもので、難解な邦楽のイメージを払拭す  
る上において、本学の邦楽定期演奏会は大  
きく貢献しているものと思われる。新たな邦  
楽人口を得る最先端の発信基地が芸大・邦  
楽になりつつある現実をも直視しながら、教  
官が互いのジャンルを越える真のアンサンブ  
ルを確立するため、学生とともに演奏研究  
を重ねる日々を過ごしていることをこの機会  
に記しておきたい。  
(ますぶち・じんいちろう／音楽学部邦楽科  
教授)



**演奏堂概要**

開館	1998年4月
設計	東京芸術大学施設課 (株)岡田新一設計事務所
形状	音響設計協力(株)永田音響設計
座席数	シューボックスタイプ 1,140席(1階956席、バルコニー席184席、オーケストラピット使用時1,018席)
残響時間	1.7~2.4秒(天井可変装置により変更可能)
舞台機構	可変天井(客席部天井3分割、可変高さ最低10.8m~最高15.8m 主舞台(13.5m×21.4m、開口幅19.8m) オーケストラピット(4.8m×18m、2分割、4管編成対応、昇降手摺、前舞台として使用可能) 幕類、バトン類、迫り(ひな段、道具迫り)、可動プロセニアム
パイオルガン	フランス、ガルニエ社製(3手鍵盤、足鍵盤、76ストップ)
楽屋	8屋。その他、スタッフルーム、楽器庫、調光室、音響調整室等